

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---------|-------------------------|----|------|
| 報告番号 | 乙第1233号 | 氏名 | 山本哲平 |
| 論文審査担当者 | 主査 石塚修 副査 川真田樹人・塩沢丹里 | | |

(論文審査の結果の要旨)

局所麻酔薬注入用ルーメン付カテーテル (NMOC 3WAY カテーテル) は術後のカテーテルに関連する不快感及び抜去時の痛みを緩和するのに有用であると報告されているが、NMOC 3WAY カテーテル (以下 NMOC) は、尿路が損傷している患者では局所麻酔薬の副作用が懸念されるため、泌尿器系手術後の患者では添付文章上の適応はない。そこで、山本は尿道と膀胱に損傷が発生し、カテーテル操作時に大きな痛みを引き起こす可能性がある前立腺高線量率小線源療法 (以下 HDRB) 時に NMOC を使用し、NMOC の安全性と鎮痛の有効性を調査した。対象患者は長野市民病院で 2016 年 4 月から 12 月に HDRB を受けた患者 30 名にアンケートで施術の痛みを数値的評価尺度とフェイススケールを用いて評価した。最初の 10 人の患者には従来の 16 Fr オールシリコンフォーリーカテーテルを使用し HDRB を施行後にカテーテル交換、膀胱内血腫除去、カテーテル牽引を行い、その痛みを評価した (コントロール群)。残りの 20 人の患者に、NMOC (16Fr オールシリコンフォーリーカテーテル) を使用し、治療終了後に NMOC から 4%リドカイン溶液を 10 mL 注入し、同様のカテーテル操作を行い、痛みを評価をした (NMOC 群)。NMOC 群は薬液注入時の痛みも評価した。NMOC 群は解析可能であった 16 名の患者で NMOC の有効性を評価した。

その結果、山本は次の結論を得た。

1. コントロール群と NMOC 群のグループ間の患者背景に差を認めなかった。
2. カテーテル交換時の痛みのスコアは NMOC 群で有意に低下した。
3. カテーテル操作時の痛みのスコアは NMOC 群で有意低下した。
4. 薬液注入時の痛みは極軽度であった。
5. NMOC 使用により、カテーテル牽引に伴う鎮痛剤の使用開始までの時間は 2 時間延長した。
6. 翌朝までの鎮痛薬の使用頻度と回数に有意差を認めなかった。
7. NMOC 使用に伴う明らかな有害事象は確認されなかった。

これらの結果により、NMOC は泌尿器系手術後の患者でも安全に使用でき、従来の尿道カテーテルに比べ、カテーテル交換時、操作時の痛みを軽減するのに有効であると考えられた。NMOC 使用により、膀胱反射が抑制できる可能性があり、局所麻酔薬の反復投与で術後のカテーテル法に伴う不快感のコントロール、術後の鎮痛薬の量を減らせる可能性が示唆された。

よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。